物理化学 II-第11回-1

3-8 熱力学第二法則の応用

(熱力学第二法則)

$$\Delta S = \int_{1}^{2} dS \ge \int_{1}^{2} \frac{d^{\prime}Q}{T_{e}}, \qquad \Delta S + \Delta S_{e} \ge 0$$

<基本>系の(1→2)の変化に対して、 ΔS と換算熱量の総和を比較する。 あるいは、 ΔS と ΔS_e との和を求める。

上式で、不等号が成立:実際に生じた $(1\rightarrow 2)$ の変化は不可逆変化等号が成立:実際に生じた $(1\rightarrow 2)$ の変化は可逆変化

<注> 換算熱量の総和や外界のエントロピー変化の値は、実際に生じた変化[(1→2)の方向]に対応させて求める。ただし、系のエントロピー変化は可逆変化を想定して計算する。

(1)理想気体の真空への拡散(定温変化) <ジュールの実験参照>

[系:状態1(P_1 , V_1 ,T) →状態2(P_2 , V_2 ,T)] (注:状態1は真空も含める)

・系のエントロピー変化: $\Delta S = nR \ln(V_2 / V_1) > 0$

理想気体の定温変化: $\Delta U=0$, 系がした仕事: $-W=\int P_e dV=0$, $\cdot \cdot \cdot Q=0$

・外界のエントロピー変化: $\Delta S_e = Q_e / T_e = -Q / T_e = 0$ (Q = 0)

 $\therefore \Delta S + \Delta S_e > 0$ — この変化は不可逆変化

第11回-2

(2)理想気体の定温・定圧混合

[系の状態1(A,Bが独立に存在): $A(n_A,P,V_A,T)$, $B(n_B,P,V_B,T)$ →状態2(混合後): (n_A+n_B,P,V_A+V_B,T)]

・系のエントロピー変化: $\Delta S = \Delta_{\text{mix}} S = -R(n_A \ln x_A + n_B \ln x_B) > 0$

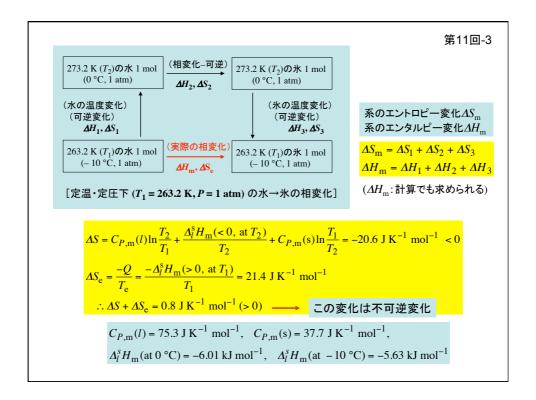
・外界のエントロピー変化: $\Delta U = 0$, $-W = \int P_e dV = 0$, $\therefore Q = \Delta U - W = 0$ 実際の変化: $P_e = P_e \Delta V = 0$ $\therefore \Delta S_e = Q_e / T_e = -Q / T_e = 0$

 $\therefore \Delta S + \Delta S_e = \Delta_{\text{mix}} S + \Delta S_e > 0$ — この変化は不可逆変化

(3)相変化(定温・定圧下での変化):練習問題 3.4

[系の状態1(-10°C,1 atm下の過冷水)→状態2(-10°C,1 atm下の氷)] 凝固熱(固化熱)が発生

- ・この変化は不可逆変化(自発変化)である。熱力学第二法則に基づいて、このことを証明する。
- ・その際、系のエントロピー変化ASを求めるには、最初と最後の状態は系と同じであるが、実際に系が辿った過程とは関係なく、可逆過程を考える必要がある。
- ・外界のエントロピー変化 ΔS_{e} は、実際に発生した凝固熱(あるいは計算値 ΔH) から求める。



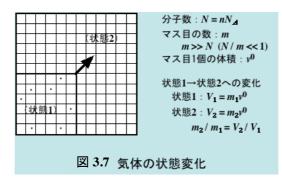
第11回-4

3-9 エントロピーの分子論的意味

(1)エントロピーSと微視的状態数Wとの関係式(Boltzmannの公式)

$$S = k_{\rm B} \ln W$$
 ($k_{\rm B} = k$: Boltzmann constant)

<例>理想気体の定温変化(内部エネルギーU一定,配置の問題)



第11回-5

微視的状態数Wの計算

m個のマス目にN個の区別できる分子を入れる方法の数W'

$$W' = m \cdot (m-1) \cdot (m-2) \cdots (m-N+1)$$
 (図を書いて考えよ)

実際は分子は区別できない。一つの分子配置に対してN! 個多く数え過ぎている。(分子が区別できるときは、一つの配置に対して、N! 個の順列がある)したがって、区別できる(独立な)分子配置の数=微視的状態数Wは

$$N! \cdot W = W', \quad \therefore W = W'/N!$$

$$W = \frac{m \cdot (m-1) \cdot (m-2) \cdots (m-N+1)}{N!} = \frac{m!}{(m-N)! \cdot N!}$$

[マス目の数 $m \to 9$ (体積 $V \to +$), 分子数 $N \to +$]のとき, 微視的状態数 $W \to +$

・マス目の数m および分子数N の値が非常に大きく(Avogadro数), また (N/m) の値が非常に小さいとき, 以下の近似式を用いて微視的状態数W を求める。

x is very large: $\ln x! \cong x \ln x - x$

y is very small: $ln(1+y) \cong y$, $y^2 \cong 0$

第11回-6

 $\ln W = \ln m! - \ln(m - N)! - \ln N!$

$$\cong m \ln m - (m-N) \ln (m-N) - N \ln N$$

$$= -[(m - N)\ln(m - N) - m\ln m + N\ln N]$$

$$= -[(m-N)\ln(m-N) - (m-N)\ln m + N\ln N - N\ln m]$$

$$= -m \left[\left(1 - \frac{N}{m}\right) \ln \left(1 - \frac{N}{m}\right) + \frac{N}{m} \ln \left(\frac{N}{m}\right) \right]$$

$$\approx -m \left[-\frac{N}{m} + \left(\frac{N}{m} \right)^2 + \frac{N}{m} \ln \left(\frac{N}{m} \right) \right] \approx N - N \ln \frac{N}{m}$$

Starlingの公式

上式の項の並び変え

N lnm の足し算と引き算

上式の第1項と第2項, および 第3項と第4項をまとめる

上式第1項の対数のテイラー展開, および $(N/m)^2 = 0$ の近似

・状態1から状態2への理想気体の定温変化に伴うエントロピー変化 AS

$$S = k_{\rm B} \ln W$$

$$\therefore \Delta S = S_2 - S_1 = k_{\rm B} \ln W_2 - k_{\rm B} \ln W_1$$

$$= k_{\rm B} \left(N - N \ln \frac{N}{m_2} \right) - k_{\rm B} \left(N - N \ln \frac{N}{m_1} \right) = k_{\rm B} N \ln \frac{m_2}{m_1} = n(k_{\rm B} N_{\rm A}) \ln \frac{V_2}{V_1}$$

$$= nR \ln \frac{V_2}{V_1} = -nR \ln \frac{P_2}{P_1} \qquad (R = k_{\rm B} N_{\rm A})$$

第11回-7

(2)エントロピーS の加成性と、Boltzmannの公式(S = k ln W)

独立な系Aと系Bが存在しているとき、これら全体を一つの系と見なすとき、 全体の微視的状態数Wと、全体のエントロピーS はそれぞれ

$$W = W_{A} \times W_{B}, \qquad S = S_{A} + S_{B}$$

これらのW(積)とS(和)の関係を結びつける関数F(W)を見いだす。

$$S = S_{A} + S_{B}$$

$$\downarrow \qquad \qquad \downarrow$$

$$F(W_{A} \times W_{B}) = F(W_{A}) + F(W_{B})$$

関数F(W) として、対数を考えれば

$$k_{\rm B} \ln(W_{\rm A} \times W_{\rm B}) = k_{\rm B} \ln W_{\rm A} + k_{\rm B} \ln W_{\rm B}$$
 $(k_{\rm B}$: 比例定数)
 $\therefore F(W) = k_{\rm B} \ln W \rightarrow S = k_{\rm B} \ln W$ Boltzmann定数

Boltzmann定数